

第四節 明治三十七年

明治三十七年東京美術學校年報

甲 款

概況

明治三十七年七月四日午前九時ヨリ第十三回卒業証書授與式ヲ行ヒ卒業製作及成績品ヲ陳列シテ來賓ノ觀覽ニ供シ翌五日六日兩日本校關係者ニ觀覽セシム

同年八月一日ヨリ三週間ヲ以テ本校ニ木炭畫水彩畫夏期講習會ヲ開キ講習會員百名アリタリ

明治三十八年二月十日征露宣戰詔勅ノ一週年ニ相當セルヲ以テ本日ヲトシ経同ノ上臨時休業シ戰捷祝賀會ヲ催シ乃木司令官及東郷聯合艦隊司令長官へ感謝狀ヲ贈呈セリ

同年三月六日本校構内學士會院ニ於テ考按製作ノ十八大家八曲小屏風並ニ古畫ヲ陳列シ且佛國ヨリ取寄セ本校鑄金科側ニ据付ケタル縮刻器械ヲ運轉シテ知名ノ士及美術ニ關係アルモノヲシテ縱覽セシム 來觀者三百名アリタリ 本校入學者中俊秀ヲ拔擢スル目的ヲ以テ四月ヨリ六月迄中學校卒業生ニ假入學ヲ許シテ實技ヲ練習セシメ其成績ニ依リテ入學ヲ許否シタルハ例年ノ如クニシテ結果ノ良好ナルハ喜フベキコトナリトス

規程
本校内ヨリ物品ヲ持出サントスルモノハ從來校丁服務心得ニ依リ

テ處理セシガ猶一層取締ヲ嚴ニスルタメ明治三十七年十月物品持出規程ヲ制定シ校丁服務心得ヲ改正ス
明治三十八年三月十三日本校規則全部ヲ別紙ノ如ク改正ス〔285頁に全文掲載〕

今其概要ヲ學クレハ左ノ如シ

一 第一條ニ「建築科」ヲ置ク（當分之ヲ欠ク）ノ文字アリシヲ削リ「實業學校ノ圖按、彫刻、金工、漆工ノ教員タルベキモノヲ養成ス」ルノ趣意ヲ加ヘタリ

一 各科中從來彫金鍛金ト分立セシヲ合セテ一科トナシテ之ヲ金工科ト改メ鑄金科ヲ鑄造科ト改稱セリ

一 從來ノ假入學ノ稱ヲ廢シテ更ニ豫備科（四月ヨリ一學期）ヲ置キ本科ヲ四ヶ年トシ別ニ卒業期ニ學期ヲ設ケ専ラ卒業製作ニ從事セシム 即チ前後通シテ五ヶ年ヲ以テ本校ノ修業ヲ了ルモノトス 而シテ又之ニ伴ヒテ卒業期ヲ毎年三月トナセリ

一 豫備科及本科ノ學科課程ヲモ改正セリ

一 入學者ハ豫備科ヲ經由セサレハ本科ニ入ルコトヲ得サルコト、シタルヲ以テ從來施行シタル本科ノ競争入學試験ハ爾後之ヲ行ハサルコト、セリ

一 入學在學退學規程試験規程研究科規程授業料及其他ノ規程等モ改正セリ

一 新ニ休學規程ヲ設ケ五ヶ月以上ノ休學ヲ許可スルコト、セリ
一 選科ノ入學志願者ニハ從來實技ノ試験ノミヲ施行セシカ更ニ之ニ四ヶ年ノ高等小學卒業又ハ中學二年修了以上ノ學力ヲ要スルコト、シ其經歷ナキモノハ本校ニ於テ試験ヲ施行スルコト、ナ

セリ

一 講習科ノ範圍ヲ拡メ實業學校ノ教員モ入學スルヲ得ルコト、ナセリ

一 授業科ノ納期ハ從來九月十一月二月四月ノ四回ナリシヲ九月一月四月ノ三回ニ改メタリ

設備

本校敷地ノ狹隘ナルハ毎年本項ニ於テ述フル所ノ如ク又其校舍ハ明治十年教育博物館トシテ建造シタルモノヲ充用シ居ルカ故ニ逐年破損朽腐ノ箇所ヲ増シ漸次危殆ニ赴キ改築ノ必要ハ倍々焦眉ノ急ニ迫ルヲ以テ數年前ヨリ之ヲ本項ニ於テ申報シ一面ニ於テハ改築ノ計畫アランコトヲ具申スルモ未タ其運ビニ至ラズ 然レトモ之放擲シ置クヘキニアラス 速ニ改築ノ計畫アランコトヲ望ム 講議室ハ從來二室ヲ充用スルノミニシテ講授上不便尠カラズ 他室ヲ流用セントスルモ既ニ亦不足ヲ告クルノ際ニシテ如何トモスヘキナシ 少クモ一棟ヲ増築スルノ必要アリ

職員

教授助教授書記ハ定員ニ滿タズ 目下ノ費額ニテ之ヲ充タスニ足ラサレハナリ 今其人員ヲ昨三十六年度末ニ比スレハ教授ニ一人ヲ増シ助教授ニ一人ヲ増シタルハ學科目ノ増加ニ伴ヒタルニ依リ嘱託講師二人ヲ減シ同教員ニ四人ヲ増シ教務雇員二人ヲ減シタルハ教務上ノ都合ニ依リ書記ニ一人ヲ減シタルハ死亡シタルニ由リ事務雇員二人ヲ増シタルハ之ヲ補充シタルガタメナリ 外國留學生ハ昨年度末ニ同ク教授二人助教授一人アリ 休職員ハ本年度末ニ於テハ一人モナシ

生徒

生徒ノ操行學力入學者ノ程度年齢等ハ前年ニ比シテ著シキ差違ヲ見サルモ健康ニ於テハ概シテ前年度ヨリ良好ナルヲ認ム 而シテ入學者ノ年齢ハ本科生最高二十六年六ヶ月(本年三月ヲ計) 最低十七年八ヶ月平均二十一年二ヶ月 撰科生最高三十年九ヶ月 最低十七年六ヶ月 平均二十二年二ヶ月 圖書講習科最高三十一年十ヶ月 最低二十一年十一月 平均二十七年二ヶ月 研究科最高二十八年七ヶ月 最低二十三年四月 平均二十四年十ヶ月ナリ

生徒ノ入學轉科退學ハ之ヲ前年度ニ比スレハ入學者ニ於テハ豫備之課程三人撰科ニ八人ヲ増シ研究科ハ三人ヲ再入學ハ三人ヲ減シ轉科ニアリテハ一人ヲ減シ退學者ニアリテハ病氣退學ハ七人ヲ家事系累退學ハ七人ヲ除名ハ二人ヲ減シ死亡者ニアリテハ一人ヲ増シタル

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スルニ豫備之課程ハ三人ヲ日本畫科ハ七人ヲ西洋畫科ハ十人ヲ圖按科ハ九人ヲ彫刻科ハ一人ヲ漆工科ハ三人ヲ撰科ハ六人ヲ増シ研究科ハ六人ヲ圖書講習科ハ四人ヲ減シ差引三十五人ノ増員ヲ見ル

本年度卒業生ハ各本科生十人各撰科生二十三人修了生ハ圖書講習科五人合計三拾八人ニシテ昨年度ニ比スレハ四人ヲ減ゼリ

生徒中學術品行共々優等ナルモノヲ撰ビ明治三十七年九月ヨリ向フ一ケ年間ノ授業料ヲ免除シ特待生ヲ命シタルモノ二十一人アリテ前年度ヨリ四人ヲ増セリ

生徒中最モ勤勉ナルモノヲ撰ビ之ヲ表彰センタメ卒業証書授與式場ニ於テ精勤証書ヲ授與シタルモノ三十四人アリテ昨年度ニ比ス

レハ五人ヲ減セリ

實業學校教員養成規程ニ依リ學資ヲ補給シタルハ昨年度ノ如ク五人ナリ

明治三十八年七月卒業スヘキ生徒ヲシテ實地ニ就キ研究修學セシムルタメ三十七年九月末迄十七日間ヲ以テ囑託教員壹人助教授一人ヲシテ生徒ヲ引率セシメ京都奈良ニ出張ヲ命シタルコト前年ニ同シ

本校生徒ハ皆通學ナルヲ以テ寄宿生ニ関スル事項ノ申報スヘキナシ

將來施設上必要ト認ムル件〔明治三十五、六年度報告とほぼ同文につき省略。〕

雜件

生徒實驗ノ資ニ供スル爲メ諸向ノ依囑ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

依囑製作品一覽

品名	數量	受託年度	竣工	依託者
會員章原型	一〇、五九九	同	同	大日本消防協會
第五回勸業博覽會賞牌箱	一〇、五九九	同	同	博覽會事務局
同上	一〇、五九九	同	同	同
石膏製人物	五ヶ前年度	同	同	京都高等工藝學校
銀製花瓶	一對本年度	竣工	有賀豐之進	
木製畫帖形八曲屏風	一前年度	同	同	日本銀行
木製畫帖形八曲屏風	一本年度	同	同	登山長藏
渡邊辱五郎銅像	一同	同	同	井上はつ
象牙銅扇	一同	未竣工	同	牧野伸顯
帝國圖書館壁飾り	五本年度	未竣工	同	文部省建築課
唐銅製無目鏡板	五本年度	未竣工	同	文部省建築課

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹

東京美術學校近時〔二一四〕^{卷号} M・三七・一・三一^{年月日}

○前々號掲載後に於ける職員動靜左の如し。

十一月七日、學校長正木直彦氏は、高等官三等に陞叙せられたり。

同月二十日、教授高村光雲氏は、内務省古社寺保存會用務のため、福島縣下白水觀音堂の調査に關して出張せらる。

十二月七日、教授島田佳矣氏は、臨時博覽會鑑査官仰付けらる。

同月十一日、教授川端玉章、同高村光雲の兩氏は各從五位に敍せられたり。

同月十四日、第五回博覽會審査官中審査擔任の勞効に依り、正木學校長、石川〔光明〕教授、海野〔勝珉〕教授の三氏には藍綬褒章を賜はり、川端〔玉章〕教授、高村〔光雲〕教授、荒木〔寛畝〕教授、藤田〔文蔵〕教授の四氏には、各銀盃壹個づゝを賜はり、大村〔西崖〕教授には事務官たりし勞効に依り、藍綬褒賞を賜はりましたり。

同月二十二日、教授白濱徵氏は、教員檢定委員臨時委員會臨時委員を免ぜらる。

同月同日、教授和田英作氏正七位に敍せられたり。

同月二十八日、教授墨田清輝、同荒木寛畝、同石川光明、同竹内久一、同海野勝珉の五氏は、各高等官四等に陞叙せらる。

〔補遺。〕十二月一日 教授高村光雲〔東京市依囑ノ浅草公園噴水器塑造監督ヲ命セラル〕〔職員辞令メモ〕

○圖書教育第一號の發刊 事務所を本校内に置き、圖書教育の上進